

# 子どもの本

研究会



【私の一冊】『数学者の哲学十哲学者の数学』

(東京図書)

砂田利一、長岡亮介、野家啓一 著

桑島修一郎



自身の学歴を振り返ると、いわゆる典型的な理系に分類され、幸いにも大学で自然科学の研究者の道を歩むことになった。しかしながら、単に文系科目が苦手であったことから理系を標榜してきた人間にとって、早晚研究に行き詰まることを予想することは容易だったかもしれない。四十にして転身し、五十にして、自然科学をバックグラウンドに科学技術政策や産学連携を語る研究者兼実務家に落ち着いている。ちょうど五十の舞台に乗るタイミングでコロナ禍が直撃したわけであるが、在宅勤務が続く中、何を思ったか、あれほど苦手であった文学書や哲学書を読み漁るようになる。この頃に出会ったのが本書である。仕事柄、民間企業や行政の人たちと交流することも多く、大学の社会的な意義や価値までを問われるようになった昨今、特に科学技術を飛躍的に発展させた数学と哲学との関係性の理解についてもう一度紐解いたのは必然だったと思う。

本書は、数学者、自然科学のバックグラウンドを持つ哲学者、そして両分野双方の良さを熟知し社会に還元してきた研究者兼実務家の三者による鼎談形式で展開する。この三十年、科学技術立国を標榜してきた日本において、政策的には理工系の育成・強化に重心を移してきた中で、文系・理系という二項対立が当たり前だった学生時代を過ごした筆者には非常に新鮮であった。同時に、数学の助けを得て、もはや万物の摂理を説明し得るところまで来ていると思いついていた自身の自然科学感に対し、所詮、数学や物理は人間の思考のある一面を描写しただけのものであるかも知れず、昨今バズワードのように使われる「イノベーション」が、とても科学技術だけに固執しては不十分であることに気づかせてもらったのも良い出会いであった。

とはいえ、数学に支えられた科学技術の進展は目覚ましいことも事実である。ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、そして今話題の人工知能等々、これら実用的な側面を生み出すための背景には数学の飛躍的な進展があることは容易に想像できる。かつて哲学の一部として生まれてきた数学が、人間の思考に対する新たな描写に考えあぐねている本家の哲学をも凌駕しようとしている現実も本書から感じられる。最近の高校教育でも理系・文系の振り分けが少なくなつたように聞くが、子どもたちには是非とも文理の烙印を押される前に本書のような数学の歴史を知ってほしいと思う。

(京都大学特定教授)

2023年5月20日(土) 特定非営利活動法人 熊本子どもの本の研究会 発行

熊本子ども本の研究会  
設立40周年記念公開講座の  
開催概要が決まりました



講師 さくまゆみこさん (翻訳家)

テーマ 「本は世界につながる窓」

日時 9月10日(日) 10時~12時

開場9時30分

会場 くまもと県民交流館パレア

10階 会議室7

参加費 一般(中学生以上) 700円

会員500円 当日、受付でお支払いください。

### 【講師プロフィール】

さくまゆみこさんの翻訳作品は、絵本からヤングアダルト小説、研究書まで250点を超え、アフリカ人作家、アフリカ系アメリカ人作家の作品も多い。アフリカの子どもの本を届ける活動やアフリカの文化や子どもを日本の子どもたちに伝える活動も長年続けている。翻訳作品に『もうひとつの「アンネの日記」』(講談社)、『カマキリと月く南アフリカの八つのお話』(福音書店)、著書に『エンザロ村のかまど』(福音館書店)、『どろろしてアフリカ? どうして図

書館?』(あかね書房)など。ブログ「バオバブの木と星のうた」などで情報発信にも注力。翻訳のかたわら日本ペンクラブ「子どもの本」委員、日本国際児童図書評議会(JBBY)会長をつとめる。



【さくまゆみこさんを迎えるにあたって】

さくまさんは最近執筆されたエッセー「平和な世界を願って 子どもの本にできること」

(「バオバブの木と星のうた」に投稿されています)で、ご自身が翻訳した『子どもの本で平和をつくる』の内容を紹介したうえで、「子どもの本にたずさわる者としては、あえて理想を口にすることも必要だと私は思っている」と締めくくられています。さくまさんは社会に対して理想をもって発言なさる方です。JBBYでは、

福島県南相馬市の施設に毎月図書を送付したり、子ども食堂などにご希望のテーマに沿った図書を寄贈したりされています。ウクライナをはじめ、いろいろな国からきた子どもたちを対象に本をプレゼントする活動もなされています。

熊本県民としては、2016年の地震時に今村葦子さんが熊本の避難所に本を送ってくださったことも忘れられません。本は心を支え、物

語はいつときでも違う世界に導いてくれました。あの時のお返しに、誰かに本を提供できる人になりたいと願います。しかし、本を選び、提供するとはとても難しいことです。ご講演を通して、外国語の本を選び、紹介する翻訳者であるさくまさんが、どのように本を選び、提供されてきたのかを伺えたらと期待しています。

参加希望者は氏名・ふりがな・電話番号・会員か非会員かを明記の上、左記宛にお申し込みください。

E-mail koukai@kodomonohon.org

FAX 096-382-5090

募集は先着40名(定員になり次第締め切ります)。

★40周年記念公開講座スタッフを募集します

事前打合せや準備会への参加、当日の準備や後片付けをお手伝い願います。さくまさんと身近にお話しできる機会もあります。

スタッフとしての参加が可能な方は、左記メールアドレスまでご連絡ください。

(公開講座担当 安田・古上・木村・堀畑)

koukai@kodomonohon.org

2

## 2023年度 総会のご案内



特定非営利活動法人 熊本市子どもの本の研究会  
会の2023年度通常総会を下記の通り開催いたします。

日時：6月25日(日) 11時

場所：熊本市現代美術館会議室

### 審議議案

第1号議案 定款の変更

第2号議案 2022年度事業報告

第3号議案 2022年度活動決算報告  
(含む監査報告)

第4号議案 2023年度事業計画

第5号議案 2023年度活動予算

第6号議案 役員改選

正会員の方々は、ご出欠について6月15日までにご連絡願います。

皆様ののご出席をお待ちしております。



## ◇2022年度活動報告

2022年度は、4月27日の開講講座から活動を開始しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて8月の講座は中止となりましたが、それ以外の講座は予定通り開催することができました。植物生態学者・多田多恵子さんを招いて久々に開催した公開講座も30人以上の方々にご参加いただき、賑やかな会となりました。2021年9月に亡くなった前理事長・横田幸子さんを偲ぶ会にも30人の方々が集まり、幸子さんを偲ぶとともに、参加者同士の旧交を温める良い機会となりました。

オンラインでの活動も、研究会活動検討会に加え、22年度から新たに「子どもと大人の読書会」と「グリム童話の魅力」を開催し、活動の幅を広げることができました。

読書会に参加している小中学生を主たる対象として、びわの木文庫での本の貸し出しも再開しました。

「おはなしボランティアびわの木」への依頼も増え、計17回開催しました。会報は隔月で6回発行し、ホームページもタイムリーに更新しました。以下、活動内容を列記します。



### (一) 会員数

正会員 67名 賛助会員 1名  
寄付者 9名

### (二) 公開講座

10月9日(日) 10時～12時

場所 市民会館シアーズホーム夢ホール

テーマ 「絵本に発見！ 植物の知恵」

講師 多田多恵子さん

参加者 34人

### (三) 講座活動

第3水曜日の10時～12時、熊本市立図書館

(特記以外)にて開催

4月27日 開講講座(参加人数) 10人

熊本市青年会館

5月18日 科学絵本の流れから見た

多田多恵子の作品 8人

6月15日 お話の小道具の制作 10人

13時から15時 実演 8人

7月20日 フィールドワークの体験！

そこで感じたこと 9人



9月21日 松岡享子さんの作品を楽しむ 7人

10月19日 植物と心通わす物語 7人

11月16日 文字の多い絵本を読む 7人

くまもと県民交流館パレア

12月14日 田口祐子さんをお招きして

クリスマスおはなし会 12人

1月18日 昔話の形式について 7人

2月15日 参加型の絵本を読む 5人

3月15日 閉講講座 13人

(四) 横田幸子さん(前理事長)を偲ぶ会

9月11日(日) 10時〜11時45分

くまもと県民交流館パレア 30人

(五) 研究会活動検討会(オンライン)

2か月に1回、日曜の10時〜12時

4月10日(10人)、6月12日(4人)

8月21日(3人)、10月16日(2人)

12月11日(4人)、2月12日(4人)

(六) グリム童話の魅力(オンライン勉強会)

会員の竹内識晃さんによるグリム童話の紹介

8月28日(日) 10時〜12時30分 8人

(七) 子どもと大人の読書会(オンライン)

小学生、中学生の選んだ本を読み、子どもと

大人がそれぞれ感想を述べ合いました。

8月7日(日) 10時〜12時

(小学生3人、中学生2人、大人5人)

11月13日(日) 10時〜11時30分

(小学生2人、中学生2人、大人7人)

2月5日(日) 10時〜11時30分

(小学生3人、中学生3人、大人5人)

(八) びわの木文庫(研究会事務所2階)

読書会参加の子どもらへ本を貸し出し

1月22日(日) ||子ども5人、

2月11日(土) ||子ども2人、

3月5日(日) ||子ども4人、

3月25日(土) ||子ども2人

(九) おはなしボランティアびわの木

熊本県立熊本支援学校

11月16日(水) 4・5学年

1月16日(月) 1・3・6学年

熊本大学教育学部附属支援学校

(小学部) 7月19日(火)、12月22日(木)

(中学部) 6月6日(月)、9月26日(月)、

10月31日(月)

熊本県立図書館

(幼児・学童対象) 7月9日(土)、

9月10日(土)、11月26日(土)

(1・2歳児対象) 11月17日(木)

(0歳児対象) 2月2日(木)、3月2日(木)

龍田児童館「おひざにだっこのおはなし会」

10月20日(木)

河内小学校 (1〜3年生) 10月28日(金)、

(4〜6年生) 11月10日(木)

熊本県読書推進フェスティバルおはなし会

1月28日(土)

(十) 会報「子どもの本」 6回発行

439号〜444号(5月22日、7月18日、

9月25日、11月20日、1月14日、3月25日)

(十一) ホームページの更新

<https://kodomonohon.org/>

(十二) 熊本県のNPO等支援団体に登録

ふるさと納税寄付4万9000円

(補助金ベース) 23年度事業に充当

(報告 横田真)

# ◇報告 開講講座

日時 4月26日(水) 10時〜12時

場所 熊本市立図書館 集会室

参加者 11名

## 〈2023年度活動紹介〉

一 横田理事長挨拶

今年度は研究会設立40周年に当たり、翻訳家 さくまゆみこさんを迎えて公開講座を開催する。昨年度から行っているオンラインによる「子どもと大人の読書会」では、子どもと大人双方が率直な感想を述べあうことでさまざまな効果をもたらしている。びわの本文庫からの本の貸出しも再開した。ふるさと納税経由で支援いただけることを県外の知人などに紹介している。

二 対面講座・ボランティア活動・スタッフの紹介(古上、木村)

会員の希望を取り入れ、全員で創り上げていく講座である。参加者から異なる視点を得ることが魅力。ボランティア活動は、小学校や図書館、支援学校などの依頼でおはなし会を実施。途絶えることなく活動を続けていることを誇り

に思っている。一緒に活動する仲間を募集中。

三 さくまゆみこさん公開講座に向けて

1 朗読『子どもの本で平和をつくる』

イエラ・レップマンの目ざしたことで

キャシー・ステインソン文 マリー・ラフ

ランス絵 さくまゆみこ訳(小学館)

古上 美智代

2 さくまさんのプロフィールと作品紹介

安田 晶子

さくまさんは、ブログ「バオバブの木と星のうた」をなさっていて、そちらに「こんな本だっています」、「おすすめ」、「子どもの本で言いたい放題」および「紹介を載せておられます。このサイトで、さくまさんおすすめの子どもの本や最近のエッセーなどを読むことができます。

古上さんが朗読した『子どもの本で平和をつくる』で紹介されているイエラ・レップマンは国際児童図書評議会(IBBY)の設立者で、この本は、その設立理念がよくわかる絵本です。さくまさんはIBBYの日本組織である日本国際児童図書評議会(JBBY)の会長をなさっています。

3 読みかせ『おとうさんのちず』

ユリ・シュルヴィッツ作 さくまゆみこ訳 (あすなろ書房) 木村 一恵

4 2006年度に開催した、さくまゆみこさん公開講座(熊本市子どもの本の研究会主催)

内容紹介 堀畑 真紀子

前半のテーマは〈翻訳者ほどどんな仕事をどうやってしているのか〉。本を探し、本の粗筋などの資料を持って出版社に売り込む。契約後、翻訳に取り組む。完了したら文章を〈寝かせ、再度読み直して編集者に渡す。ここでは〈寝かせ〉ことが大切。長年、翻訳に携わり思うことは、外国語よりも日本語が大事だということ。後半のテーマは〈なぜアフリカの子どもの本を訳しているのか〉。人類の祖先がアフリカ人であることに惹かれる。貧困と内戦、飢餓で報道される国々であるが、生きている喜びを持っている人が多い。アフリカの現状を伝えることで、読者が主人公と同じ靴を履くことが出来ると思う。ここにアフリカの本を翻訳する意義がある。

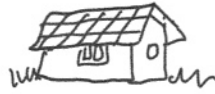
#### 四 参加者からの一言

- ・本の力の活用を何処で、どういう風にするのか、さくまさんに尋ねたい。
- ・子どもに様々な窓を開かせたいという、さくまさんの思いが感じられる。
- ・さくまさんの社会的活動の下に何が潜んでいるのか。

- ・びわの本文庫の本を活用し、子ども達との交流を図りたい。
- ・ボランティア活動を継続する大変さを実感している。

◇報告 (報告 堀畑真紀子)

2023年度第1回研究会活動検討会  
日 時 4月9日10～11時20分  
参加者 4人



- (一) 2022年度活動の確認
- ・会員数を含め、22年度活動を振り返り

(二) 2023年度活動について

#### 【開講講座】

- ・開催内容について確認
- ・新聞社に開講講座の開催案内の掲載を依頼す



る(4月19日、熊本日日新聞の文化欄に掲載)



- 【40周年記念公開講座】
- ・企画内容について相談
- ・会報445号会報発送(5月20日)の際に講座のチラシを同封

- 【5月以降の講座等の案内・広報について】
- ・各講座の開催概要(開催目的、概要、テーマ等)をホームページに掲載する。

- 【グリム童話の魅力】(オンライン勉強会)
- ・開催は、8月27日(日) 11月26日(日)を予定

- ・8月27日は「灰かぶり」(シンデレラ)を紹介予定。7月会報に開催案内を掲載。

- 【子どもと大人の読書会】(オンライン)
- ・5月28日開催の読書会はこれまでの参加者以外へも案内。



- 【びわの本文庫の公開】
- ・文庫の貸し出し日を3カ月ほど先まで決め、ホームページで公開する。

- ・5～6月の貸し出し日 5月20日(土) 13時～17時、6月24日(土) 13時～17時
- ・その他の日も都合がつけば対応



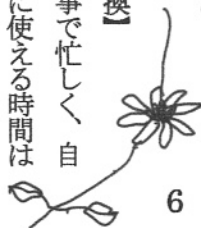
- 【通常総会】
- ・6月25日(日)、熊本市現代美術館会議室で開催(リアルのみ)の予定

- 【ふるさと納税関連】
- ・『神話的時間』をふるさと納税の返礼品として登録できないか熊本県に相談したが、本は返礼品としては登録しないとの回答あり。

#### 【子どもの読書について意見交換】

- ・中学生は部活動や塾など習い事で忙しく、自由に使える時間が少ない。自由に使える時間はユーチューブを見たり、タブレットで絵を描いたりすることなどが多いと生徒から聞いている。休み時間に読書をする生徒は少なく、読書をしている生徒にはライトノベルが好まれる印象がある。

- ・この研究会でもしばしば課題として取り上げるとおり、絵本から児童書、文芸書への移行がうまく進まない。絵本に親しんでいた子どもも





小学校に上がると、テレビゲームやYouTube、SNSなどに関心が移るケースが多い。

・しかし考えてみれば、私たち自身も中学生時代はクラブ活動などで忙しくあまり本を読まなかった。よく本を読んだのは、高校生、大学生時代だった。

・本を読むことが面白いという体験をしてもらうことが重要。子どもと大人の読書会に参加している子どもたちは、私たち大人の発言から、色々な見方があることを知り、楽しんでくれる感じ。このような集まりが読書を楽しむきっかけになれば素晴らしい。

・読書会の子どもは小学生と中学生だけだが、高校生にも声をかけてみてはと思う。

(報告 横田 真)

**参加者募集!**

**「子どもと大人の読書会」(オンライン)**

5月28日(日) 10時からオンラインで「子どもと大人の読書会」を開催します。

下記の2冊の課題本について、子どもと大人が一緒になって読んで感じたことを語り合います。さまざまな読み方があることを知ることができ、楽しめますよ。

・小学生の部

『十年屋 時の魔法はいかがでしょうか?』

廣嶋玲子作 (静山社)

・中学生の部

『ぼくらの七日間戦争』

宗田理作 (角川文庫)



過去3回の記録は、会報441号、443号、444号を参照下さい。

取り上げる本は参加する小学生、中学生が選んでいます。

参加希望の方は「子どもと大人の読書会・参加希望」と明記し、左記のメールアドレスにお申し込みください。小学生・中学生・高校生は、研究会の会員でなくとも参加できます。

メール [zoom@kodomonohon.org](mailto:zoom@kodomonohon.org)

**「びわの木文庫」の貸し出しを再開しました**

熊本子どもの本の研究会事務所(熊本市東区西原1丁目15-24)の文庫棟にある「びわの木文庫」は、古典的児童書・絵本を中心に、数千冊(最近の文学書、ライトノベル等もあります)

を所蔵しています。現在蔵書リストを作成中です。今年より、概ね月1回程度の頻度で貸出日を設け、地域の方々に本の貸し出しを実施しています。

貸出日・時間帯については、ホームページに記載しますので、ご参照願います。次回は6月24日(土)の13時~17時を予定しています。貸し出しにあたっては、氏名、住所、電話番号の登録をお願いします。

ご希望あれば、ホームページに掲載している開催日以外でも貸し出し可能です。日時を調整しますので、左記宛にご連絡願います。

e-mail [info@kodomonohon.org](mailto:info@kodomonohon.org)

電話 096-382-2914 (横田)

**おはなしボランティア「びわの木」日程(予定)**

・5月27日(土) 14時~14時20分

県立図書館(幼児・小学生対象)

・5月29日(月) 13時30分~14時

熊本支援学校

・7月3日(月) 13時30分~14時

熊本支援学校



5月～8月の講座・会合の案内

○第1回子どもと大人の読書会(オンライン)

・日時 5月28日(日) 10時～12時

○第2回研究会活動検討会(オンライン)

・日時 6月11日(日) 10時～12時

参加希望者は左記宛にご連絡願います。

メール zoom@kodomonohon.org

○講座 さくまゆみこさんの作品を読む(絵本)

・日時 6月21日(水) 10時～12時

・会場 熊本市立図書館集会所(予定)

・さくまさんの翻訳絵本は、知らなかった世界を深く考えさせます。一緒に、丁寧に頁をめくってみませんか? もちろん、楽しい愉快な絵本もあります!

○講座 子どもの本から戦争を考える

・日時 7月19日(水) 10時～12時

・会場 熊本市立図書館集会所(予定)

・各人が持ち寄った本から「平和の風景」を読み解きます。

○講座・実演 お話の小道具製作

・日時 8月6日(日)

10時～12時 製作



13時～15時 製作小道具を使って実演

・会場 熊本市立図書館集会所(予定)

★講座参加希望者は、講座名、氏名、電話番号を明記の上、メールかFAXでお申し込みください。場所、スケジュールについて、お越しになる前に必ずホームページでご確認ください。

メール kouza@kodomonohon.org

FAX 096-382-5090



本はともだち!

『マザーツリー』(スザンヌ・シマード著、ダイヤモンド社)は、帯に表記された推薦者(養老孟司、隈研吾、斎藤幸平)の面々と、「これは、『どうすれば私たちが森を救えるか』についての本ではない。これは『私たちが木々によって救われる可能性』についての本である」という刺激的なキャッチフレーズに惹かれ、即購入しました。

森の木々はマザーツリーを中心に、根に共生する菌類を通じて周辺の木々と水や養分をやり取りするネットワークを形成しています。この本はその事実を発見し、森林管理行政に多大な影響を与えた著者の半生記です。彼女は目指す森林管理業に就いたのち、近視眼的な森林管理

手法が森を痛めつけるだけになっているのではないかとという問題意識から、多くの無理解と闘いながら様々な実験を実施し、森のネットワークの存在を実証していきます。並行的に著者の家族関係や家庭生活と学究活動との両立での悩み、闘病生活も赤裸々に紹介されています。500ページを超える大著ですが、一気に読み上げてしまいました。人が生態系全体の中で生きていくことを実感させてくれる本です。

4月16日に開催された「文化講演会/宇城」の生命科学者・中村桂子さんの公演も「私たち生きものの中の私」という考え方の紹介でした。著書『科学はこのままでいいのかな』(筑摩書房)にはそのエッセンスが詰め込まれています。現代が生態系との共生が強く求められている時代であることを再認識しました。(横田 真)

■編集 金子・上林・横田 《イラスト》安田

特定非営利活動法人  
熊本市子どもの本の研究会 発行  
〒861-8029  
熊本市東区西原1丁目15の24  
FAX 096(382)5090